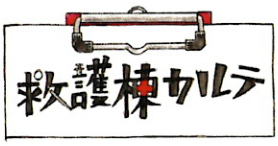
以下は、令和４年４月30日　福島県環境創造センター附属　野生生物共生センターの広報誌「あだたら森の回覧板」vol.16 春号に掲載したものです。参考にして頂ければ幸いです。また回覧板はHPからダウンロードできますのでぜひ読んでみてください。

「山越えをするオオミズナギドリ」



福島県野生生物共生センター
野生動物管理員　佐久間朝弓

毎年11月から12月にかけて、センターに「海鳥が飛べずにいる」と連絡が入ります。保護地は全て会津・中通り地方。一体何が起きているのでしょうか。

オオミズナギドリは全長約50cm、羽を広げると120cmにもなる海鳥です。

春に日本近海の小島で繁殖し、秋にフィリピン近海などで越冬します。繁殖期に巣にいる時間以外は生涯、海上で生活しています。

細長い翼でグライダーのように風をとらえ、海面すれすれを滑るように飛びます。その様子が薙刀で水を切るように見えることから「大水薙鳥」と名前が付いたと言われています。

令和３年度はオオミズナギドリの保護数が８羽で比較的多い年でした。保護地は全て会津地方でした。そして全て巣立ったばかりの幼鳥でした。ここで謎が生まれます。「海鳥であるオオミズナギドリが、なぜ内陸で保護されたのでしょうか。」

写真１入院時　目立った外傷はなく衰弱していることが多いです。

図1　令和3年度オオミズナギドリの保護地

写真２放鳥時　令和３年度はいわき市塩屋埼灯台からの放鳥です。

オオミズナギドリは今まで台風などの強風で内陸に飛ばされて落下していると考えられていました。しかし最近の研究で幼鳥は南の越冬地へ向かうために山越えをするルートを選択していることが分かりました。

親鳥は安全のため遠回りでも海上のルートで先に越冬地へ向かいます。しかし残された幼鳥たちは経験がなく山越えをして越冬地へ向かいます。

ルートは年によって変わりますが、令和３年度保護されたオオミズナギドリは新潟県粟島で巣立ち、会津地方を通るルートを選択していたと考えられます。

また、オオミズナギドリは長距離飛行をするために筋肉や脂肪を落として体をより軽くなるよう進化してきたといわれています。そのため斜面や高い場所から落下する加速を利用しないと上手く飛び立てません。

つまり謎の答えは「オオミズナギドリの幼鳥が山越えをしている途中に何らかの原因で地上に落下し、飛び立てずにいた」となります。まだまだ謎が多い野生動物。日々解明される動物の生態を考慮して適切な救護活動を行っています。